令和5年度　能美市立宮竹小学校　学校評価（案）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標  (目さす姿) | | 具体的方策 | 主担当 | 【評価指標】 〈成果指標〉〈努力指標〉〈満足度指標〉 | 【評価の根拠】 達成度判断基準 |
| 1 | 組織的な学校運営（「～がい」のある学校風土） | ①【目標達成に向けた組織力の向上】  「プロジェクトＭ」を核にして，目的を明確に協働する。検証・改善の視点を絞ったPDCAサイクルを積み重ね向上に向かう。 | 教務主任 | 【満足度指標】 「プロジェクトＭ」を核として焦点化した取組を組織的・計画的に積み上げ児童の変容を実感している。 | 【教職員アンケート】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　  目標達成に向け主体的に協働し，児童の姿の変容から教育的効果や自己の資質能力の向上を実感できた。  【児童アンケート・ふり返り】  　各取組についてねらいを達成し自分に力がついたと感じる書きぶりである。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| ②【安全・安心な学校づくり】  ヒヤリハットの発信に心がけ，全職員の危機意識を向上させる。いじめ・不登校を始めとする諸課題の未然防止と早期対応・解決に努める。 | 教頭 | 【努力指標】 全職員が「いじめ等記録シート」を持ち児童等の情報交流に努めるなど，主体的にヒヤリハットの発信や危機管理「さしすせそ」を実行している。 | 【教職員アンケート】  全職員が「いじめ等記録シート」を持ち児童等の情報交流に努めるなど，主体的にヒヤリハットの発信や危機管理を実行している。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| ③【業務改善と働きがいの実感】  ねらいの焦点化と協働化を徹底する。  各会の運営の工夫と業務の平準化を行い，達成感の共有・働きがいを感じる職場づくりを実現する。 | 教頭 | 【努力指標】  焦点化された会議の運営の工夫や業務の平準化・協働化の促進によって，達成感及び効率性を感じる業務改善に努めている。 | 【教職員アンケート】　　　　　　　　　　　　　　 焦点化された会議の運営の工夫や業務の平準化・協働化の促進によって，達成感及び効率性を感じる業務改善に努力した。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 2 | 知（能動的学習の充実→確かな学力の育成） | 1. 【授業改善】   「対話」による個々の学びの深まりをめざす。明確なゴールの姿に向かう単元構想力・推進力を鍛え，児童に「つけたい力」を確実につけ，学びの達成感や意欲を持たせる。＜指針２・６＞ | 研究主任 | 【成果指標】 単元構想含む研究授業（全体・部会）を一人1回以上行い言語活動の成果を全校に紹介する。また，重点単元末テストの平均90以上 | 【重点単元の授業公開と単元末テスト】  ・単元構想含む研究授業と言語活動の成果の公開  <評価値①1以上A,１B,１以下C,0。5以下D  ・重点単元末テストの平均90以上  <評価値②90+2以上A，90±2B。90-2以下C，85以下D> |
| 1. 【GIGAスクール構想の充実】   「能動的な学び」の充実に向けて場や内容の工夫を重ね，①知識・技能の定着　②思考力・判断力・表現力等の育成　につなげる。　＜指針４＞ | GIGA  リーダー | 【満足度目標】  活用実践例を交流し合うなど，具体的で有用感の高い研修会を計画・実施し，授業改善・学力向上につなげている。 | 【教職員アンケート】 ICTの活用により，能動的に学習が進み，①知識・技能の定着　②思考力・判断力・表現力等の向上につなげた。  【児童アンケート】 ICTの活用により，学習が進み「わかる・できる・楽しい」と感じる。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 1. 【みやっこシステムの活用】   朝学習―フォローアップタイム―家庭学習の充実について組織的に「学びの連続性」を図り，児童の学力向上を実現する。  　　＜指針４・５＞ | 教務  ・  研究 | 【成果目標】  朝―授業―放課後の学習の充実を定期的に点検・改善し，児童のinput-outputの力を向上させている。 地域ボラの学習支援（週1以上）・検証テスト平均80以上 | 【家庭-地域との連携と検証テスト】 ・地域ボラによる週1回以上の学習サポート  <評価値①1以上A,１B,１以下C,0。5以下D  ・検証テスト平均80以上  <評価値②80+2以上A，80±2B。80-2以下C，  75以下D>  【保護者アンケート】  ・家庭学習について励ましや認める声かけを行っている。　 <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 1. 【読書活動の推進】   　学校や家庭での読書推活動を推進し，読書  の量や質の向上を目指す。 | 図書担当  司書 | 【成果目標】  「10冊チャレンジ」等，学年に応じた年間の取組を担任や家庭等と連携し，90％以上達成している。 | 【年間の取組の達成率】  <評価値90+2以上A，90±2B。90-2以下C，85以下D> |
| 3 | 徳（信・任・認による豊かな人間性の育成） | 1. 【魅力ある学校づくり】   　あらゆる教育活動において「生徒指導の４つの視点」を意識し，児童の達成感と意欲につなげ「信・任・認による魅力ある学校」を創る。 | 生徒指導  プロジェクトM | 【満足度指標】  「魅力ある学校づくり」アンケートをもとにしてPDCAを実働化し，児童のA評価が増える。 | 【教職員アンケート】  児童アンケートA分析のPDCAを通して「信・任・認による子どもが主役」の学校づくりに参画している。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D>  【児童「魅力ある学校づくりアンケート」】  A評価が4割超える。または増加している。  ・学期末の児童のふり返りに，目指す姿に向けた内容が見られる割合<キーワード出現率80%以上A，70～80%B，70%以下CD> |
| 1. 【PDCAが実働化する集団づくり】   　縦割り学習活動等について目標を明確に共有し「信・任・認」を効果的に実施し，主体性・協働性の育成や自治的精神の礎を積み重ねる。 | 児童会・  担任 | 【満足度指標】  　縦割り学習活動等を通して，「信・任・認」を効果的に実施し自己有用感や共感的人間関係，自治的精神を積み重ねる。 | 【児童アンケート】  縦割り学習や活動を通して，仲良しが増え学校が良くなっていると感じる。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 1. 【「ダイバシティ教育」の充実】   道徳教育を始め,SDGs教育やキャリア教育等を通して，ダイバシティ教育の実現を目指す。 | キャリア教育担当 | 【成果指標】  年間学習計画における位置づけや日々の指導支援により，児童の意識の変容を図っている。 | 【児童アンケート】  ・「（自分・クラスは，先生は）分け隔てなく・お互いのよさを認め合うことができている」<評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 4 | 体（心身の健康向上力の育成） | 1. 【体力向上】   １校１プランに則り，「握力」「自発的協働性」を重点とする。児童一人一人に目標を持たせ計画的に取り組ませる。実感を伴う体力の向上に努める。 | 保健主事  ・  体育担当 | 【成果指標】 個々がめあてを意識し，継続的に「握力」「協働性」（スポチャレ）向上に取り組巳，記録を向上している。 | ・継続的な取組による記録の向上  個々がめあてを持って自発的に取り組み，継続的な体力づくり（握力・スポチャレ）の記録が向上した。  <個人記録・クラス平均ともに向上Ａ，  一方のみＢ，変化なしＣ，下降Ｄ＞ |
| 1. 【心身の健康力の向上】   望ましい生活習慣を確立するため，デジタルシティズンシップ教育の推進を中心に学校と家庭・地域が連携・協働し，継続的な取組を行う。 | 保健主事  ・  養護教諭 | 【努力指標】  デジタルシティズンシップ教育の推進を中心に家庭・地域と連携し「生涯の良き使い手」の育成を目指す。 | 【教・児・保護者アンケート】  ・教：発信の工夫や継続を行い改善が見られた。  ・児・保：生活習慣の向上を意識して生活できた。  <評価値3。3A，3。0B，2。7C以下D> |
| 5 | （チーム学校の輪の拡充）  家庭・地域との連携 | 1. 【開かれた学校づくり】   「学校運営協議会」を活用し，「ふるさとSDGs学習」をはじめ，学校・家庭・地域が協働して「みやつこ」の実現につながる取組を推進する。 | 教頭 | 【満足度指標】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 学校運営協議会等を活用し，学校・家庭・地域が協働して「みやつこ」の実現につながる教育活動を実施し，地域の良さを実感している。 | 【教・児アンケート】　　　　　　　　　　　 　　 学校運営協議会等を活用し，「みやつこ」の実現につながる教育活動を充実し，「ふるさとのよさ」を実感している。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　<評価値3。5A，3。0B，2。7C，以下D>  【学校運営協議会の感想】  子どもを愛し，地域による学校への協力支援が有効だと感じている。 |
| 1. 【特別支援・多様性理解の充実】   特別支援をはじめとする「多様性の理解」や各種機関との連携協働をすすめ，個や保護者に寄り添いより良い成長につながるよう努める。 | 特支コー | 【努力指標】  特別支援を中心に多様性の理解や，個や保護者に寄り添いより良い成長につなげるための各種機関との連携協働に努める。 | 【教アンケート】  特別支援を中心に，個や保護者に寄り添いより良い成長につなげるための各種機関との連携協働に努め効果を感じている。  <評価値3。5A，3。0B，2。7C，以下D> |

・ICTを織り込んだ能動的な学びの充実による学力の向上

**「全ての児童を全ての職員で見守り育てる」**

**「誰一人とり残さない宮竹小」**

・明確なねらいを共有した学習活動での「信･任・認」によるPDCA実働の積み上げ効果の実感

・認め合い、深め合い、高め合うダイバシティ教育の実現による豊かな人間性の育成

・「ヒヤリハット」や「報･連･相」が日常化された抱え込みのない・「対話」を大切にする活気と笑顔に満ちた「学校風土」づくり

* 焦点化した取組の共通実践の徹底と「チーム学校の輪の拡充」により、「しん化」させる能動的でスピード感のある心豊かな組織をめざす。